

別紙様式第10

学位論文審査結果の要旨

博士課程 甲	第 号	氏 名	白根 美帆
審 査 委 員		主 査 氏 名	盛武 浩
		副 査 氏 名	黒田 嘉弘
		副 査 氏 名	大澤 健司
<p>[論文題名]</p> <p>Comprehensive Hearing Care Network for early identification and intervention in Children with congenital and late-onset/acquired hearing loss: 8 years' experience in Miyazaki</p> <p>[要 旨]</p> <p>宮崎小児難聴ネットワークで発見された小児難聴の実態を明らかにすると共に難聴支援センターの有用性を検討した研究である。2010年から2017年までに89,390人の乳児が出生し84,737人が新生児聴覚スクリーニング(NHS)を受けreferだった614人と難聴リスク因子を認めた84人が難聴児発見ルート(NHSN)で受診した。自治体などからの難聴児発見ルート(CHCN)では182人が受診した。両側性80人と一側性89人の併せて169人が難聴と診断された。両側性80人中76人が補聴器装用開始し、15人が人工内耳手術を受けた。両側中耳奇形例4人が鼓室形成術を受け、両側術後の2人は補聴器が不要となった。89人の一側性難聴児には画像評価を行い、良聴耳の経過観察を定期的に実施した。169人についてloss to follow-up例は無かった。高度・重度難聴児の早期聴覚補償は言語発達の点で重要であり、本ネットワークはNHS refer児の100%に対して精密聴覚検査を実施可能とした。更に、本システムでは高度以上の先天性両側難聴児の100%に対し難聴の診断と療育を開始し有用であったと考えられる。宮崎県全体の難聴疑い児の抽出から医学的介入、療育支援までを一括管理するHCCを中心としたMiyazaki HCNにおいては、NHS refer児の100%に対して精密聴覚検査の実施を可能とした。またNHSでは発見できなかった後天性や進行性難聴児の発見および療育開始を可能とし、loss to follow-upの回避にも有用であった。</p> <p>本研究成果は小児難聴ネットワーク構築が早期発見および治療介入に極めて有意義であることを証明したもので、今後の診療に資する研究成果である。学位論文に値する内容と判断した。</p>			

最終試験結果の要旨

博士課程 甲	第 号	氏 名	白根 美帆
審 査 委 員	主 査 氏 名	盛 武 浩	
	副 査 氏 名	星 田 嘉 弘	
	副 査 氏 名	大 澤 健 司	
[要 旨] 研究の倫理性、学位論文内容に問題はなかった。発表も周到に準備されており、関連領域の質問に対しても十分な知識を有していた。 以上より、医学博士の学位に値すると判定した。			